



今月の主な目次

- 哺乳ロボット導入による
飼養管理のポイント
- トウモロコシサイレージの調製ポイント

- 営業所だより シリーズ⑨
旭川営業所からの現地レポート
- 秋におけるアルファルファの栽培管理

時の話題

上野幌の歴史

現在の本社所在地、札幌市厚別区上野幌は雪印種苗にとって、また、親会社の雪印乳業にとっても、由緒深い土地柄です。

本年、雪印乳業は、創立80周年を迎え、雪印種苗は、創立55周年(創業64年)を迎えます。

雪印乳業は1925・大正14年5月に、この地で、^{すいとろ}出納農場の製酪所を借り、デンマーク農業を手本にバターを製造しており、それを起点とし、80周年を迎えたこととなります。

上野幌の現在

本社は、国道274号線に面し、JR上野幌駅から徒歩10分、JR新札幌駅からバス利用で15分、道央道「札幌南インター」から5分、交通はとても便利です。

上野幌育種場時代に入社した先輩社員は、馬籠や馬車で厚別駅まで出迎えを受けたと聞いており、隔世の感が致します。

現在、社員・従業員が80名程勤務し、地域社会との交流や連繋にも配慮し、活力のある職場作りに努め、社業の発展に向け、邁進しております。

種子センター

平成14年11月に、豊平区美園から上野幌へ移設しております。種苗会社にとって「種子センター」は心臓部、それゆえ本社も一緒に移動した次第です。

建物の外観は「アイスホッケーセンター」の面影が残っており、内部は大きく造作され、見学の皆様には、二階の回廊からご覧いただけるようになっています。

種子は比較的低温で湿度が低い条件での保管が適し、優れた環境条件と最新鋭の設備を整えております。

園芸センター

昭和54年、札幌研究農場が上野幌の都市化に伴い、長沼町に移転し、それに伴い、上野幌の敷地活用の一環として、「園芸センター(上野幌店)」を設立し、現在に至っております。

広大な敷地に恵まれ、樹木の苗圃が充実し、特にバラ苗については評価が高く、愛好家の皆様に親しまれております。敷地内には、その昔、「野幌原始林」と連なっていたと思われる原生林があり、グループの社歴以上の年輪を感じさせてくれます。

今シーズンは、「バラ園」を再整備し、池周辺の安全対策も施しました。お蔭様で、多くのご来場者からご好評をいただき、営業強化と独自性の発揮に努めております。

北海道は、冬の期間、雪に閉ざされた期間が長く、「園芸センター」の冬期間の集客力も低下します。これをどう解決するか、長年の課題となっています。



雪印種苗(株)本社

札幌営業所

本社機構の中で、日々顧客の皆様と接する重要な仕事を担っているのが札幌営業所です。急激に都市化した札幌圏ではありますが、その周辺には、多様な農業が展開し、酪農畜産はもとより畑作園芸まで、幅広いウイングと緻密な営業活動が求められております。

札幌周辺には、古くからのお客様や上野幌を良く知っておられるお客様も多く、お客様から会社のことや、先輩のことを教えられることも多く、これは、とてもありがたいことで、感謝しております。

酪聯発祥の地

昭和33年に、上野幌育種場の15周年を記念して、雪印乳業の前身である北海道製酪販売組合联合会、すなわち「酪聯」が、最初の乳製品をこの地で製造したのを記念し、建立されております。

黒澤西蔵翁が「酪聯発祥の地」と達筆を揮われております。尚、千葉研究農場には、黒澤翁による「愛土即仁也」の書が研修室の正面に掲げられております。これらは、創業者精神の「健土健民」の教えを身近に感ずる一瞬でもあります。

黒澤さんは酉年生まれですから、もし、ご存命であれば、今年は2度目の還暦、120歳を迎えられたこととなります。

会社創立55周年を迎えるに当たり、上野幌の今昔をテーマにご紹介させていただきました。

技術と誠意で「農業奉公」の社是を忘れることなく、顧客の皆様から信頼をいただけるよう、努力を重ねてまいります。上野幌にも是非お出かけ下さい。

(管理本部副本部長 山下太郎)